

会費・募金へのご協力  
ありがとうございました

令和元年度もみなさまの厚いご協力とあたたかいお気持ちを頂戴し、心より感謝いたします。  
みなさまから寄せられた会費・募金は、今後も港南区の地域活動を支援していくため有効に活用してまいります。

## 令和元年度 赤い羽根共同募金・ 年末たすけあい募金のご報告



### 令和元年度の共同募金のつかいみち

17,650,717円 (赤い羽根 13,203,684円  
年末たすけあい 4,447,033円)

- 身近な地域の見守り・助け合い事業へ** 3,000,000円  
●区内15地区社会福祉協議会  
(ひとり暮らし高齢者の見守り訪問・サロン活動・食事会、住民支え合いマップ作成、地域のちいさなお困りごとへの支援など)
- 高齢 障がいのある方・子どもたちへ** 8,547,033円  
●ひとり暮らし高齢者などへの配食サービス  
●地域交流・居場所づくり (異世代交流活動、不登校・ひきこもり支援)  
●家事・介護の支援、外出介助、見守り活動など非営利活動  
●子育て支援 ●障がい児者の余暇支援活動・訓練会 など
- 社会福祉施設の大型備品整備へ** 4,360,000円  
●区内保育園 プール設備事業  
●区内作業所 送迎用車両購入事業
- 区社会福祉協議会事業へ** 1,057,209円  
●区社協だよりの発行 ●災害見舞金の支給  
●低所得者への旅費等援護費 ●ひまわりホルダーの作成 など
- 県内の福祉施設・団体へ** 686,475円

### ぜひ、見てくださいね♪

皆さまからの募金が、様々な団体の活動の一助となっております。共同募金を活用して活動している団体の「ありがとうメッセージ」を YouTube で皆さんにお伝えします。

共同募金では、LINE による募金方法があります。いただいた募金は、港南区内の地域活動団体・施設等に活用させていただきます。ご協力をお願いいたします。



## 港南区社協 善意銀行 (通年受付)

港南区の高齢者・障がい者をはじめとする様々な方を支援するため有効に活用しています。

(令和元年11月1日～令和2年10月末 受付分)

【善意銀行寄付金】 1,072,059円

### ◎寄付者一覧 (順不同・敬称略) (令和2年11月10日現在)

- ①港南区女性団体連絡協議会 ②司法書士 岩屋口 智栄 ③石渡 美華
- ④港南区クリスマスチャリティーコンサート実行委員会 ⑤船井 章一
- ⑥明るい社会づくり港南区協議会 ⑦鈴木 幸子
- ⑧令和2年港南区消防出初式実行委員会 ⑨横浜港南ロータリークラブ
- ⑩横浜市港南区港友会 ⑪芹が谷コミュニティとと
- ⑫パークコリーナ自治会 ⑬石田 弘子 ⑭リハビリボランティア活動ふじの会
- ⑮橋本 弘子 ⑯やよい会 (代表 富田 静男) ⑰相川 昌三
- ⑱株式会社 清光社 ⑲織茂 大治 ⑳和田 信夫 ㉑鈴木 孝司
- ㉒株式会社 中信 ㉓遠藤 良子ほか 匿名寄付者 12名

## 令和2年度 日本赤十字社 会費募集運動 (令和2年4月～)

国内外の救援活動や区内の救急法講習会の開催、地域福祉活動支援、罹災世帯への災害見舞金にあてられます。

【会費】 7,115,695円 (令和2年8月末現在)

## 広告募集 (次号掲載 No.76 2021年12月発行)

「社協だよりこうなん」は、港南区民を主な対象とした地域福祉の広報誌です。毎号85,000部を発行し、港南区にお住いの方に配布されるほか、港南区内にある関係施設やPRボックス等にも置かれています。詳細はお問い合わせください。

広告料金：税込3万円 (本会会員2万円) ※広告のデータが無い方は無料で作ります。  
広告サイズ：横94×縦60mm ※この枠の大きさです。

### 主な配布先

自治会町内会、区社協会員団体、地域ケアプラザ、区役所、横浜市社協

### お問い合わせ・お申し込みは

社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会まで



## 社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会

〒233-0003 港南区港南4-2-8 3階 (そよかぜの家3階)  
TEL: 045-841-0256 FAX: 045-846-4117  
URL: http://www.kounan-shakyo.jp/ E-mail: toiwase@kounan-shakyo.jp

**編集後記** コロナウイルスの関係で、区内での色々な活動ができていない状況にあり、どんな紙面が作れるか心配でしたが、コロナ禍での高齢者の見守りにもつながる移動販売のことや、この状況で何ができるかを考え活動した地域の団体の素晴らしいところを伝えられたらと思います。(O.T)

港南区社会福祉協議会広報委員 石上 捷子 平川 陽子 大和田 高道 福島 康弘 竹園 幸子 野間 肇 稲葉 幾代 萱畑 佳代子

○この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金により作成しています。  
○港南区社会福祉協議会では、事業計画・報告並びに収支予算・決算についてホームページに掲載しております。また冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。  
○「社協だよりこうなん」音声版 (テープ・CD) もボランティアグループ「港南音訳ボランティアいとはんわ」の協力により作成しています。  
ご希望の方は港南区社会福祉協議会までご連絡ください。

社協だより

# KoNan

No.75  
Dec.2020



日野団地の移動販売

# コロナにまけない！ 支えあい

新型コロナウイルス感染拡大により、私たちの暮らしは大きく変化しました。今までやっていたことを継続することが難しくなりました。

しかし、そんなコロナ禍においても相手を思い、気にかけて、見守っている人がいます。今号の社協だよりこうなんでは、コロナにまけずに支え合いながら取り組んでいる区内の活動を紹介します。

また前号に引き続き福祉ネットワーク事業を取り上げます。今回は日野地区の取組を紹介します。

- 取材団体
- 日野団地
  - 笹下台団地
  - 港南区障害者団体連絡会
  - 配食グループ てまり
  - ひぎり地区社協
  - 日野地区社協
- 中面へ



社協だより こうなん 第75号

発行 / 社会福祉法人 横浜市港南区社会福祉協議会 ■発行責任者 / 木村 妙子 ■発行日 / 令和2年12月

# 買い物支援から地域交流へ

港南区には、山坂が多く買い物に行くのに困難な地域があります。この課題を解決しようと、移動販売の取組が広がっています。そのうち日野団地と笹下台団地での取組を取材しました。

## 日野団地

日野団地は住民の約3割が一人暮らし高齢者で、団地内には急な坂道があります。そのため移動販売が始まりました。外での販売は密にならないという事でこのコロナ禍でも、たくさんの方が来ていました。そして「移動販売は地域に受け入れられなければ上手はいかない」と日野団地自治会田中会長は話します。日野団地で移動販売が受け入れられたことで、それが住民にとって生活にかかせない存在になっています。

杖を使っているので販売員が買ったものを部屋の前まで一緒に運んでくれるのでありがたい!



移動販売



体調不良で出て行けない時でも、電話をすれば来てもらえるので嬉しいです!



田中会長と販売員さんと3人の広報委員

みなさん楽しんで買い物中!

いろいろな野菜や果物も買えます

今までは食パン1斤のために20分歩いて買いに行っていたけれど、週2回来てくれるようになり便利!



皆さんが買いやすい場作りを目指しています。寒くなって来たので鍋焼きうどん・おでん等の商品を増やすなど、皆さんの立場になり商品を考えています。見るだけでも良いので寄ってください!



販売員

## 笹下台団地

笹下台団地の移動販売では、シルバークラスの笹寿会とボランティアが活躍しています。笹寿会の岡田会長は、「できる時にできる人がやる!」という言葉の通り、買ったものを自宅に届ける方、空き地を活用した畑で作った野菜を提供する方、販売場所がわかるように案内をする方、コロナ禍での販売で密にならないように間隔をあけて椅子を並べる方など役割分担をして活動を行っています。椅子を並べたことで、待っている間に隣同士で会話が弾むという嬉しい効果も!それぞれ役割を決めたわけではなく、一人ひとりができることを提案し実行しています。

合言葉は「あそこに行けばみんながいる。買うものがなくても出ておいで!」と笹寿会会計の佐久間さんが話され、来ていない方がいると「〇〇さん来てないね」と安否確認を自然と行なっています。移動販売を通して、利用者は行けば知っている人がいる安心感とボランティアはそれぞれが「できることをやる」ため、楽しみながら活動ができ、それが見守りに繋がっています。



雨の日は集会所でやります!

朝市では新鮮野菜が買えます!



ボランティアメンバー

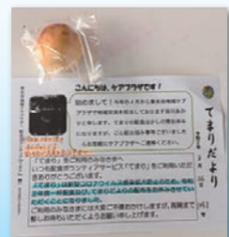
## 配食グループてまり

### 手紙による安否確認

配食グループてまりは、一人暮らし高齢者を対象に配食を行なっています。新型コロナウイルスが拡大する前は、お弁当の蓋に「てまりだより」という手紙を貼付し配達していましたが、新型コロナウイルス感染防止でお弁当を配達することが難しくなりました。そこで、見守り・安否確認のために「てまりだより」のみを利用者宅へ届けることにしました。手紙を受け取った利用者からは、「久々の再会で懐かしいです」と喜んでもらえた代表の永江さんは話します。お弁当は配達できなくても、「てまりだより」がボランティアと利用者をつないでくれています。



心あたたまるととき



てまりだよりとお饅頭

## ひぎり地区社協

### 手作りマスクを子どもたちへ

ひぎり地区社協では 新型コロナウイルスの感染拡大防止対策で休校していた地域の小学校が再開された時、何ができるかを検討しました。子どもたちの健康と一日も早い新型コロナウイルスの収束を願って子ども用マスクを作成することになりました。当初は協力して下さる方がいるか不安もありましたが、呼びかけた全ての方が協力したことから「この地域のボランティア意識の高さを改めて実感した!」とひぎり地区社協の利根川会長は話します。完成したマスクは洗濯し、エタノールを吹きかけクリアポケットに入れることで衛生面も考慮したということです。

マスクは150枚集まり小学校へ寄付されました。校長先生からは「すぐに使えるようにと1年生と2年生全員に配布しました」、PTAの会長さんからは「助かりました。ありがとうございます」と感謝の言葉を頂いたそうです。また、マスク作りに関わった方々は子どもたちが見覚えのあるマスクを付けているのを見ると「役に立って良かった!」と感じるそうです。

マスクが繋いだコロナ禍での世代を超えた支えあい活動の一つとなりました。



## 日野地区社協 福祉ネットワーク活動

### 集まることに価値がある

日野地区の支え合い活動の始まりは阪神淡路大震災がきっかけでした。助けてほしい人、助けることができる人はどれだけいるのか全戸配布でアンケートを取り、何ができるかを検討しました。また、福祉ネットワーク活動はエリアが広いので地区全体で動くのではなく、各自治会町内会で行うことを基本としています。日野地区は、昔から住む人達が新しく地区へ転入してきた人達にも寛容なため「会館開放」という形で福祉ネットワーク活動を展開しています。「会館開放」は、各自治会館や町内会館で健康体操など様々なプログラムを用意しており自分の好きな会館に行くことができます。日野地区社協の内田会長は「集まることに価値がある」と話しています。

集まることで悩みの相談や情報交換ができます。そこから出てきた困り事はご近所で解決したり、地域ケアプラザに相談したりと支え合い活動につながっています。



認知症講座を開催



日野地区の会長とメンバー

# 港南区障害者団体連絡会 コロナ禍での障がいのある方の困りごと

障がいのある方は、コロナ禍ならではの困りごとがありますが、誰かの手を借りることができたらできることもたくさんあります。今回は、障がいのある方と障がい者施設の方に「コロナ禍で困っていること」を聞きました。



コロナ禍での活動報告会

## 聴覚障がいのある方より

### 口元の動きが見えない!

普段は口元の動きで言葉を判断して会話していますが、マスクがあると口元の動きが見えないので言葉がわかりにくいです。そのため、筆談してもらるか透明なフェイスシールドを着用してもらえるとわかりやすいです。



## 知的障がいのある方より

### 距離の取り方が難しい!

人と接することが好きな方の場合、スキンシップをしたり話をしたいため近づきすぎてしまうこと、マスクをしていても取ってしまうこともあります。ソーシャルディスタンスで話ができるように配慮してほしいです。ダメな時は「ダメだよ」と優しく声をかけてください。



## 視覚障がいのある方より

### 手を貸してほしい!

階段を利用する時に、腕や肩につかまり誘導してもらってもあります。3月くらいから接触をさけるという社会情勢から、声をかけてくれる人が減りました。6月からは少しずつ増えてきてとても助かっています。感染対策をしっかりしているのでぜひ声をかけてほしいです。そうすると安心します。



## 施設の方より

### 居場所があることが大切!

障がいのある方にとっていつも通りに通所できること、自分の居場所があることが大切です。コロナによって企業から委託されるお仕事が減ってしまっていますが、手洗い・消毒など感染予防を徹底しながら事業を継続しています。



地域の中で困っている方がいたら思い出してください

